

平成16年度実施 オープンスペースアンケート

オープンタイプの普通教室のアンケート調査結果について

学校名 杉並区立杉並第十小学校

●オープンタイプの普通教室について

メリット

- 教室の壁の位置を移動させることができるので、学習の形態に応じた机の配置を様々に考え実施できる。
- スライディング・ウォールの枚数を多めにしておけば、様々な壁の配置が可能になる。現状は枚数不足。
- 通常2人ずつ並ぶ机の配置をテスト時に個々に机を離す場合、壁が移動できるので1学級40名規模であっても机の配置を容易にできる。
- 本校では、子どもの発達や学級の状況も考慮し、本年度1学期は、低学年では壁を設置し、中学年で衝立的に設置、高学年は解放させている。

デメリット

- 隣接教室の教師・児童の声や、視聴覚機器の音が漏れてくるため、集中が妨げられる。
- 教室の扉が無い場合、教室に居られない児童や学習に飽きた児童が、躊躇することなく外に出てしまう。
- 壁を設置する場合、並べられたスライディング・ウォールのずれや角で怪我をする恐れがあるので、安全への配慮が必要になる。
- 周囲からの隔離が可能な部屋があまり無いため、教育相談や個別指導等を行う場所の確保に苦労する。
- LD、ADHD、アスペルガー症候群の軽度の障害がある子どもたちにとっては、広々と開け放たれた空間は心安らかに落ち着ける場とはならないことが多い。一日の大半を過ごす生活空間が該当児にとっては適した場所とはいえない。

●教室と連続したオープンスペースや多目的スペースについて

メリット

- 学年合同で学習を行う場合、移動が容易である。また、他の学級の移動の様子がわかるので待ち時間等のロスタイムがない。
- ワークスペースに通常設置してある児童ロッカーが移動式なので、ワークスペース全面を使う集会や2学年合同活動、学年保護者会等をゆったりと行える。
- 夏休み作品展や書初め展等、教室だけでは手狭な展示や掲示が余裕をもってできる。
- 通常の学校でも多目的室は1～2部屋程度であるが、その代わりとなるワークスペースがどの学年でも教室と隣接する部分に確保できる。
- 他学年と競合することがないため、次に使う学年・学級のためにその都度後片付けをする必要もなく学習の連続性が保障される。
- 学年で共用する学習材や資料をいつでも手近に置くことができ、しかも教室内に留めておく必要もないので都合がよい。
- 生活空間である教室と作業・活動空間であるワークスペースを隣接させ、いつでも行き来できる状態にしておくことで、学習の関心意欲を持続させたり、日常化させたりするのに役立つ。

デメリット

- 隣接学級がワークスペースを利用している時は、同一教室で二つの活動が行われているようになるので、子どもたちが集中して学習に取り組めない。

平成16年度実施 オープンスペースアンケート

●地域との係わりや他の施設（高齢者在宅サービスセンター等）との併設について

メリット

- 施設利用者の苦情や要望の中に施設安全面や学校運営面で参考になる貴重な意見が含まれることがある。

デメリット

- 併設施設について問い合わせが多く、運営についての最新情報を常に把握しておかなければならない。
- 防火管理について、区の考え方と消防署の考え方に違いがある。消防署では、同じ屋根の下に複数の施設があっても管理者は一人と考えている。学校の防火管理責任者は、複合施設全部の防火管理責任者にもなるため防火面等の常時管理で負担が大きい。土曜・日曜・夜間に業務のある施設との複合は、安全管理面で気を遣う。

●外構について（門、塀など）

メリット

- 土曜・日曜・夜間を問わず、玄関以外でも灯りがともっている部屋の窓や扉をたたけば、教職員が対応してくれるので来客は用事を済ませることができる。
- 公園や近隣、校庭で遊んだりスポーツをしていてけがをした場合、不審者に会った場合も窓や扉をたたいて教職員を呼び出し対応してもらうことができる。

デメリット

- ゴミや不用品などを敷地内に放置されることがある。
- 学校の決まりを守らず、校内のどこからでも周辺道路に出てしまう児童がいる。
- 授業や朝会中でも校庭を横切ったり、運動している住民がいる。外部からの侵入を防ぐため、1階の部屋は窓や扉を開放することができない。
- 学校施設の水道、電源など校舎設備の無断利用を防ぐことができない。
- 学校の出入り口周辺への放置自転車が多数。学校敷地内への自転車の駐輪もある。

平成16年度実施 オープンスペースアンケート

オープンタイプの普通教室のアンケート調査結果

学校名 杉並区立杉並第四小学校

●オープンタイプの普通教室について

メリット

- 開放感があり広々としている。密閉されていないためゆったりと過ごせる。
- オープンスペースを活用して学習形態をいろいろに変えることができる。
- 他学級の活動が見えるため情報を交換することができる。
- 教師同士が互いに指導法を学ぶ機会が多い。
- 子ども同士は顔見知りになり人間関係がつけられる。
- 学年内での歩調を合わせることが容易になる。
- 管理職が校内を見て回る時に、学級の様子がよくわかり適切な指導・助言ができる。

デメリット

- 暖房効果があがらない。
- 体育の着替えに困ることがある。

●教室と連続したオープンスペースや多目的スペースについて

メリット

- 教室部分と併用して使うことで、学習課題に対応した授業ができる。
- 多目的スペースに学習材を用意しておくことで、児童の活用が増加する。
- 給食の配膳準備に使うことができ、安全性を確保できる。
- 児童がのびのびと使うことができ、心にゆとりが生まれる。
- 学年の児童全員が集合することができるため、教室の移動をしなくて打合せ等ができる。
- 掲示物をパネルを活用して貼ることができるため、情報の伝達にパネルをうまく使うことができる。

デメリット

- 広々としているため、走り回りたくなる児童がみられる。
- 多目的スペースに自由に出入りができるので、学習材の管理に気を配る必要が生じる。

平成16年度実施 オープンスペースアンケート

●地域との係わりや他の施設（高齢者在宅サービスセンター等）との併設について

メリット

- 来年4月に、高円寺北幼稚園が2階部分に開設されるが、相互に交流することのメリットは大きいと考えている。

デメリット

●外構について（門、塀など）

メリット

- 低い門は開放的なイメージを与える。

デメリット

- 低い門は開放的ではあるが安全面が難しい。そのため門扉を高くする工事を実施した。

●その他

- 学校施設の開放にあたっては、開放できる施設と非開放施設との境界を作り、施錠等で遮断できるよう施設面の工夫が必要である。
- カーペットはハウスダストの問題があるので、床材には木材（フローリング）を勧める。
- 窓や扉等の配置や設計にあたっては、室内の温度をより快適な状態にできるよう、また、危険なため実際には窓を開けることができないといったことが無いよう、十分に検討して欲しい。

平成16年度実施 オープンスペースアンケート

オープンタイプの普通教室のアンケート調査結果

学校名 杉並区立桃井第五小学校

●オープンタイプの普通教室について

メリット

- 明るく開放的である。
- 仕切りを有効に使うことで掲示物を工夫できる。
- グループ学習等オープンスペースを活用し指導法を工夫できる。
- 少人数学習を行う際、子どもたちが隣接の学級に出入りしやすい。
- 学年内で学級ごとの交流や学年授業がしやすい。
- 全体を把握しやすいため安全管理面でプラスになる。
- 授業公開など保護者が他クラスも参観できる。
- 校内巡視や授業観察がしやすい。(毎日が授業参観日)

デメリット

- 授業中、近接学級の話し声が聞こえたり、数クラス先で視聴しているテレビが見えたりし、学習への集中力が欠ける。(ある程度慣れてはきている)
- オープンスペースが廊下をかねている。教室移動の際、足音等授業の妨げになることがある。
- 指導者や児童も声の大きさに気を配る必要がある。
- 授業の終了や開始をきちっとしないと、他学級の授業の妨げになることがある。
- 子どもたちと部外者が接触できるため防犯上の問題がある。

●教室と連続したオープンスペースや多目的スペースについて

メリット

- 上記のオープンタイプの教室と同様

<多目的スペース>

- 天井が高く明るい。
- 十分な広さがあり有効活用できる。

デメリット

- 広く開放的であるが、防音に配慮が必要である。
- 収納スペースがなく備品類の整理に苦労している。
- 校舎の中央部にあり風通しが悪い。空調設備の充実が必要である。

平成16年度実施 オープンスペースアンケート

●地域との係わりや他の施設（高齢者在宅サービスセンター等）との併設について

メリット

- 高齢者との交流を年間を通して計画的に日常的にできる。
- 学校側から高齢者在宅サービスセンターに出向くだけでなく、高齢者が学校行事等に参加できる。（展覧会への出展、運動会、学芸会の参観など。）

デメリット

- 放送設備、受水槽等の設備が共通しているため、点検日などの日程調整が必要になる。
- 高齢者との交流が可能でありながら、バリアフリーの構造になっていない。

●外構について（門、塀など）

メリット

- 開かれた学校という点では開放的で明るく、地域の人も入りやすい。
- フェンスとあわせて樹木があるため、潤いがある。

デメリット

- 開放的なため誰もが自由に夜中でも校庭に入れてしまうため、安全管理面が難しい。
- 警備室が校庭に面していない。
- 門もデザイン重視で、門としての機能を果たしていない。
- 外回りの植え込み付近がたまり場となっていて、空き缶やゴミが置き去りに去れたり、投げ入れられている。

●その他

- デザインを大切であるが、機能面をより大切にしたい。
- オープンスペースと廊下の兼用は、オープンスペースを有効に使えない。
- 開かれた学校（施設面）か不審者対策かによって、門・塀の構造がまったく違ってくる。

平成16年度実施 オープンスペースアンケート

オープンタイプの普通教室のアンケート調査結果

学校名 杉並区立永福南小学校

●オープンタイプの普通教室について

メリット

- 壁がないため教師も子どもたちも精神的な圧迫感がない。
- 多様な学習形態がとれ、活動ができる。(少人数指導の実施等)
- 複数学年で学習が可能である。
- 開放的であるため、暑い時でも比較的快適に過ごすことができる。

デメリット

- 教室がオープンなため、慣れるまでは音がうるさく感じる。このことにより集中力が阻害される。
- 壁が少ないので作品やポスター等が掲示しにくい。
- 子どもたちの着替え場所が確保しにくい。

●教室と連続したオープンスペースや多目的スペースについて

メリット

- 机等を動かさずに大きなスペースを使用できる。
- 学年合同やグループ学習等、人数編成がしやすい。
- 広いスペースなので雨天の日も有効に活用できる。
- 机での作業と床での作業が同時に行うことができる。

デメリット

- 学習グループの編成が多様なため、授業計画の作成が大変である。
- 死角ができるため、児童の行動等を把握しづらい。
- 広いため、児童が走り回って危険である。

平成16年度実施 オープンスペースアンケート

●地域との係わりや他の施設（高齢者在宅サービスセンター等）との併設について

メリット

- 都立杉並ろう学校が近隣にあり、年間を通して、行事や学年交流、施設訪問等の交流を深めている。
- 体育館、音楽室について、外郭団体等地域の利用頻度が高い。

デメリット

●外構について（門、塀など）

メリット

- 災害発生時、隣接するひまわり公園へ緊急避難できる非常口がある。

デメリット

- 塀が低く、不審者がどこからでも侵入しやすい。
- 正門の扉が4カ所あり授業中は1カ所を除き施錠はしているが、不審者の侵入について不安がある。

●その他

- 築17年目であるが、体育館の雨漏り等施設の老朽化が進行している。長持ちする施設建設が望まれる。
- 廊下に広いスペースがあり、展示物や図工の作品、家庭科の作品等が常時掲示できる。

平成16年度実施 オープンスペースアンケート

オープンタイプの普通教室等について

教育委員会事務局

● オープンタイプの普通教室及び教室と連続したオープンスペースや多目的スペースについて

教室をオープンスペース等と連続させるというハード面の変化が、授業内容や方法などのソフト面に与える影響は極めて大きいと思います。教室から多目的スペースに活動を展開させてグループ学習や個別学習を行ったり、周辺スペースに教具・教材を用意して、児童の興味や関心をひく工夫もできます。また、児童同士や学級・学年間の交流を深めたり、開放的な気持ちにしたり様々な効果が期待できると考えます。

しかし、一方ではその開放度により、授業が隣接教室の教師や児童の声などで妨げられる、児童によっては落ち着きがなく集中力に欠ける等の弊害も指摘されています。また、教育方法に大きな変化を求められるため、教職員の対応や有効な活用ができるかが課題になってきます。

オープンタイプ教室とオープンスペースは全く仕切りのないタイプ、家具で仕切るタイプ、可動仕切りタイプなどいくつかのタイプがあります。また、教室とスペースが1対1に対応するタイプ、いくつかの教室に一つのスペースといったタイプも考えられると思います。

オープンタイプの教室を導入する際には、まず教職員の積極的利用計画と多様な学習形態の構築が必要であり、それに対応した仕切り、オープンスペースの面積、形態など十分に検討していく必要があると考えています。

● 地域との係りや他の施設(高齢者在宅サービスセンター等)との併設について

学校は、地域の身近な公共施設として他の施設との複合化や学校開放を考慮する必要があります。施設に入居している高齢者との交流や地域の方との交流により、子どもたちが地域社会の中で学習する機会が増大する効果が期待できます。今回の荻窪小学校は、他施設との複合化の予定はありませんが、学校開放については、生涯学習の場としての活用を一層積極的に進めるためにも、開放可能な部屋の検討と施設のユニバーサルデザイン、開放施設と非開放施設の区分と安全対策等の検討が重要と考えています。

● 外構について(門、塀など)

地域に開かれた学校としては、門や塀がない学校は理想的であるともいえます。杉並第十小学校は、門も塀もない公園と一体となった開かれた学校ですが、学校の安全確保のために地域住民の協力が欠かせません。

近年、教育現場において発生している事件等を考えると、教育現場の理解、地域の特性や地域住民との協力体制の確保など一定の条件が整わなければ、門や塀のない学校は難しいものと考えています。